

(様式第1号)

令和1年9月27日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領域名：マネジメントに関する領域

科目名：介護業務の標準化と質の管理

単位数：2

認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人岡山県介護福祉士会

団体事務所の所在地：〒700-0807

岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ7階

電話：086-222-3125

FAX：086-222-6780

E-mail：okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：会長 安達 悦子 印

申請責任者：事務局長 神實 誠子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙 1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	令和1年9月27日
申請団体名	一般社団法人岡山県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 安達 悦子
申請責任者職名	事務局長
申請責任者氏名	神寶 誠子
団体住所	〒700-0807 岡山市北区南方 2-13-1 きらめきプラザ 7 階
同 Tel・Fax	Tel : (086)-(222)-(3125)
メールアドレス	Fax : (086)-(222)-(6780) E-mail <u>okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : マネジメントに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 介護業務の標準化と質の管理 (2 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 () 年 認証番号 () 年 認証番号 ()
その他特記事項	

認定申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	マネジメントに関する領域	
科目名	介護業務の標準化と質の管理	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスの質の評価は、その実施によって、ケアの質の向上につなげ、ひいては、介護保険の理念（利用者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにすること）の実現を目指して実施するべきものである。重要なこととして、中身もさることながら、それを運用する「人」の知識・技術および能力が重要となる。目指すゴールを理解し、それを実現化していく（＝質の高いサービスの提供）ということは、すべての職員がそれを理解し、実践できることが必要となる。しかしながら、管理者がすべてを行うことは現実的ではないため、それを職員に伝え、実践できるように導くことのできるリーダーの存在が必須となる。そのため各施設・事業所においてマネジメントができ、かつ職員の指導・教育ができるリーダーの育成を目指す。 ・自職場において実践されている介護業務を整理し、サービスの質の評価と改善に向けた検討を行うことができるようにする 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの質の評価の枠組みに関する基礎的な概念について説明できる。 ・プログラム評価の考え方について概説できる。 ・論理的思考に基づいて実践を整理し・記述することができる。 ・上記を踏まえたうえで、自職場の実践を科学的・客観的に記述、評価し、サービスの質の改善に向けた検討、業務の標準化に向けた実践の基準づくりや実践の組織の検討を行うことができる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒューマンサービスの特性 ○サービスの質の評価の枠組み <ul style="list-style-type: none"> ・ストラクチャー、プロセス、アウトカムの考え方 ・プロセス評価とアウトカム評価 ・技術的部分（科学的根拠）と対人関係的部分 ・既存の「評価」の意味と意義（第三者評価、報酬の加算・減算など） ○実践の記述と構造的整理 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム評価の考え方（インパクト理論、プロセス理論、フィデリティ評価等） ・経験学習に基づく実践の言語化、（演習含む） ・論理的思考に基づく自職 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前課題①（2時間） ストラクチャー、プロセス、アウトカムの枠組みを示したうえで、介護実践の質をどのように評価できるかについてA4 1枚レポートにまとめて提出する。 ○ヒューマンサービスの特性と質の評価（4時間） （講義） 形のある商品と比べた時にサービスには財としてどのような特性があるのか、その中でヒューマンサービスにはどのような特性があるかを理解する。 （講義） ドナベディアンモデルの説明、ストラクチャー・プロセス・アウトカム評価、介護報酬の構造（ストラクチャーからプロセス、アウトカムへ）、評価の目的、実践の改善に資する手法としてプロセス評価の有効性を理解する。 （演習） 講師が提示した事例（介護報酬の構造、例えば栄養マネジメント、重度者対応、看取り）をもとに、報酬による評価の構造を理解し、プロセス評価やアウトカム評価の重要性を理解する。次いで、プロセス評価とアウトカム評価の利点や課題を議論し整理する。 ○事前課題②（3時間） 排泄ケア、食事ケア、看取り、経口摂取など、介護業務として取り扱えるものにフォーカスして、取り組んだ実践の過程と結果について記述する。

<p>場実践の記述と構造化、評価と改善策の検討(課題学習と演習)</p> <p>○介護業務の標準化と管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助における標準化の意味、サービス標準、ケアミニマム ・介護業務基準、業務と実践の捉え方 ・指導的立場にある者の職務(内省支援、業務支援、精神支援等)、学習する組織の重要性 ・可塑性を行動レベルではなく思考レベルに求めるマニュアルや手順書のあり方、実践の基準づくり、実践の組織化のあり方(演習含む) 	<p>○事前課題②(3時間)</p> <p>排泄ケア、食事ケア、看取り、経口摂取など、介護業務として取り扱えるものにフォーカスして、具体的なケースについて以下の計画案をまとめる。(まだ実践していないケースでとりまとめる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人のプロフィール ・フォーカスしたケアに関わるアセスメント項目と結果 ・フォーカスしたケアの改善に向けた具体的な支援計画 <p>○実践の構造的な記述(7時間)</p> <p>(講義)</p> <p>実践の質の向上においてサービスの標準化が不可欠であることを理解した上で、実践と業務の違い、業務基準、指針・マニュアル・手順書の違いなどを理解する。実践の構造的な技術(言語化、抽象的概念化、構造化)なしに継続的な質の改善が図れないことを理解し、記述に有益なプログラム評価の考え方を学ぶ。</p> <p>(演習)</p> <p>事例課題をもとに、インパクト理論を作成したうえで、プロセス理論に基づいて実践の構造的な記述をグループ(4~6人)で行う。アセスメント項目をインプットとして扱い、具体的な支援内容をアクティビティとして記述して、とりまとめる。事例を出発点としながら、個別具体的な事例から離れて実践を管理的な視点で記載することが、サービスの標準化、業務基準、ケアミニマム、ルール・ロール・ツールの考え方に通ずることを理解する。</p> <p>○事前課題③(2時間)</p> <p>自職場における介護業務に関する指針やマニュアルや手順書を準備し、介護保険法や障害者総合福祉法の理念を念頭におきながら、講師が記載した視点に基づいて、マニュアルや手順書の評価と課題をレポートとしてまとめる。</p> <p>○評価項目の作成と質の管理(4時間)</p> <p>(講義)</p> <p>サービスの質の評価方法について解説する。フィデリティ評価、パフォーマンス測定、自己評価と第三者評価の関係性を理解する。</p> <p>(講習)</p> <p>提出された事前課題③を用いながら、指針、マニュアル・手順書の違いを理解し、思考と行動の双方の標準化を促すようなこれらツールが求められていることを理解する。</p> <p>(講習)</p> <p>質の管理の一連の流れが、ケアマネジメントのPDCAサイクルであることを理解する。</p> <p>(講習)</p> <p>規範として定義された実践のプロセスを組織化する方法、部下の育成方法について学ぶ。経験学習理論が有益であることを理解する。</p> <p>(講習)</p> <p>作成されたプロセス理論をもとにサービスの質に関する評価項目を具体的に検討する。</p> <p>○事後課題(5時間)</p>
--	--

		研修で扱った介護業務についてのプロセス理論を完成させる。次いで、研修で学んだことを自職場で共有し、プロセス理論の活用について自職場で取り組めることをアクションプランとして記述する。
研修方法	■集合研修 ■課題学習	○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。 ○課題学習は事前課題①～③（詳細は上述）、事後課題①（詳細は上述）。事前課題①は初回集合研修前に提出。事前課題②は第二回集合研修前に提出。事前課題③は第三回集合研修前に提出。すべての評価は担当講師が行い、各集合研修に活かす。
研修時間	30 時間（集合研修 15 時間、課題学習 15 時間）	
修了要件	○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計 30 分（遅刻、早退それぞれ 15 分）を上限として認める。やむを得ない事情による 30 分以内の遅刻・欠席があった場合は、当該科目の講師資料またはテキストによる課題を提出する。 ○事前・事後課題の提出を必須とし、課題未提出の場合は修了を認めないものとする。 ○確認テスト（15 問）において、A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）であること。 D 評価（59 点以下）の場合は、再試験および、レポート課題を提出し評価するものとする。	
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・修士課程を修了している介護福祉士であることが望ましい ・介護福祉士として指導的立場で 5 年以上の経験があり、実践の評価と改善に取り組んでいる者が望ましい 	
(2) 受講者について		
受講対象（受講要件）	単位取得できるのは介護福祉士資格を有する者であること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ I 類を修了していること。 ・ ユニットリーダー又はサービス提供責任者以上の職歴が 3 年以上の者が望ましい。 	
修了評価	修了評価は以下にて行う。 ○事前課題①～③を 30%（100 点満点）と事後課題 20%（100 点満点）の評価と、確認テスト 50%（15 問・100 点満点）により行い、事前・事後課題・確認テスト共に、100 点～80 点を A、79 点～70 点を B、69 点～60 点を C、59 点以下を D の 4 段階評価とする。A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）で修了とする。 ○事後課題は、「論理的思考に基づいた記述となっている」「研修で学んだ理論が活用されている」の視点により評価し、D 評価となった場合、別途課されるレポート（介護業務の標準化と管理について A 4 用紙 1 枚にまとめる。）を提出する。 ○集合研修を欠席した場合、課題が提出されていても修了を認めない。	
(3) 研修の環境条件		
定員（講師の配置基準）	15 名（講師 1 名） 演習時にファシリテータ 2 名を置く。	
開催場所（都道府県）	岡山県	

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2022年(調整中)
	②
	③
開催場所(会場)	① 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
	(岡山市北区南方2-13-1)
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当講師(演習・課題・評価): 高橋 秀紀 氏
	【職歴】
	現在の所属 社会福祉法人 日本原荘 総合ケアサービスセンターかつた 施設長 (社会福祉士 介護福祉士)
	平成3年～デイサービスセンター日本原荘 介護職員 平成7年～特別養護老人ホーム日本原荘 生活指導員 平成10年～特別養護老人ホーム第3日本原荘 〃 平成13年～ 〃 ソーシャルワーカー 平成15年～ 〃 介護支援専門員 平成19年～ 〃 施設長 平成26年～総合ケアサービスかつた 施設長
	【講師経験・社会活動等】 兵庫県立大学大学院 経営研究科 介護マネジメントコース修了 学位:ヘルスケア・マネジメント修士 津山市職業訓練校 高齢者と家族の理解(平成22～26年) 岡山県介護支援専門員協会 基礎研修講師(平成22年) 岡山県地域公益活動推進フォーラム 講師(平成23年) 津山中央看護専門学校 非常勤講師「社会保障・社会福祉」 (令和2年7月～12月)
【著書等】	
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会(岡山県介護福祉士会 正副委員長・事務局員)10名内常勤2名
研修の企画運営に関する 諸規程	岡山県介護福祉士会定款に準ずる

研修管理責任者職名	岡山県介護福祉士会研修委員長
研修管理責任者氏名	松島 智枝美
機構問合せ先部署	岡山県介護福祉士会事務局
機構問合せ先担当者氏名	藤原 美恵子
機構問合せ先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
機構問合せ先 e-mailアドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
受講問合せ先部署	岡山県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	藤原 美恵子
受講問合せ先電話番号/FAX	TEL 086-222-3125/ FAX 086-222-6780
受講問合せ先 e-mailアドレス	okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	岡山県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ■紙媒体及びデータによる台帳管理 ■外付けディスクにバックアップデータを保管する ■データ保存期間は10年間、その後は外付けディスクでデータを保管する。 ■個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全過程を修了した者には、岡山県介護福祉士会会長名による修了証明書を発行する。
管理責任者氏名	事務局長 神寶 誠子
管理担当者氏名	事務局員 藤原 美恵子

(別添資料)

集合研修における具体的なコマシラバス

申請対象の領域 マネジメントに関する領域

科目名 介護業務の標準化と質の管理

集合研修の総時間数 15 時間

1 日目 (8 時間)

時間	テーマ	展開内容 (講義ポイントや演習の展開内容)	留意事項等	担当講師 (補助講師)
9:00~9:45 1h	導入 1. ヒューマンサービスの特性と質の評価	・ 講義展開について説明 (講義) 形のある商品と比べた時にサービスには財としてどのような特性があるのか、その中でヒューマンサービスにはどのような特性があるかを理解する。	「介護福祉の組織・制度論」(光生館) P.3 (受講生購入)	高橋 秀紀
9:45~10:30 1h	2. サービスの質の評価の枠組み	(講義) ドナベディアンモデルの説明、ストラクチャー・プロセス・アウトカム評価、介護報酬の構造(ストラクチャーからプロセス、アウトカムへ)、評価の目的、実践の改善に資する手法としてプロセス評価の有効性を理解する。	テキスト 「介護福祉の組織・制度論」	高橋 秀紀

10：30～10：40	休憩			
10：40～12：10 2 h	2. サービスの質の評価の枠組み	<p>(演習)</p> <p>1) グループワーク 講師が提示した事例（介護報酬の構造、例えば栄養マネジメント、重度者対応、看取り）をもとに、報酬による評価の構造を理解し、プロセス評価やアウトカム評価の重要性を理解する。次いで、プロセス評価とアウトカム評価の利点や課題を議論し整理する。</p> <p>2) グループ発表</p> <p>3) グループワーク プロセス評価とアウトカム評価の利点や課題を議論し整理する。</p> <p>4) グループ発表</p>	<p>グループ編成 5名×1G 共通事例を使用する</p>	<p>ファシリテーター (小泉立志) (仁木 潤)</p>
14：30～14：40	休憩			
13：00～16：10 4 h	3. 介護業務の記述と構造的整理	<p>(講義)</p> <p>実践の質の向上においてサービスの標準化が不可欠であることを理解した上で、実践と業務の違い、業務基準、指針・マニュアル・手順書の違いなどを理解する。実践の構造的な技</p>	<p>テキスト 「介護福祉の組織・制度論」</p>	<p>高橋 秀紀</p>

		術（言語化、抽象的概念化、構造化）なしに継続的な質の改善が図れないことを理解し、記述に有益なプログラム評価の考え方を学ぶ。		
--	--	---	--	--

2日目（7時間）

時間	テーマ	展開内容（講義ポイントや演習の展開内容）	留意事項等	担当講師 （補助講師）
9:00～11:25 3h (休憩10分)	導入 3. 介護業務の記述と構造的整理	<p>・前回の講義の復習と本日の講義の展開について (演習)</p> <p>1) グループワーク 事例課題をもとに、インパクト理論を作成したうえで、プロセス理論に基づいて実践の構造的な記述をグループ（4～6人）で行う。アセスメント項目をインプットとして扱い、具体的な支援内容をアクティビティとして記述して、とりまとめる。事例を出発点としながら、個別具体的な事例から離れて実践を管理的な視点で記載することが、サービスの標準化、業務基準、ケアミニマム、ルール・ロール・ツールの考え方に通ずることを理解</p>	グループ編成 5名×1G	高橋 秀紀 ファシリテーター (小泉 立志) (仁木 潤)

		する。		
11:25~12:10 1h	4. 介護業務の標準化と質の管理	<p>(講義)</p> <p>フィディリティ評価、パフォーマンス測定、自己評価と第三者評価の関係性を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提出された事前課題③を用いながら、指針・マニュアル・手順書の違いを理解し、思考と行動の双方の標準化を促すような、これらツールが求められていることを理解する。 質の管理の一連の流れが、ケアマネジメントのPDCAサイクルであることを理解する。 	<p>テキスト (資料)</p> <p>「プログラム評価」</p> <p>一人対人・コミュニティ援助の質を高めるために一</p>	
12:10~13:00	休憩			
13:00~14:30 2h		<p>(講義)</p> <p>規範として定義された実践のプロセスを組織化する方法、部下の育成方法について学ぶ。</p>	<p>テキスト</p> <p>「介護福祉の組織・制度論」</p>	
14:30~14:40	休憩			
14:40~15:25 1h	4・介護業務の標準化と質の管理	<p>(演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作成したプロセス理論をもとに、サービスの質に関する評価項目を具体的に検討する 		ファシリテーター

		<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・グループ発表 <p>振り返り</p>		<p>小泉 立志 仁木 潤</p>
15 : 30～16 : 00	確認テスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンサービスの特性と質の評価 2. サービスの質の評価の枠組み 3. 介護業務の記述と構造的整理 4. 介護業務の標準化と質の管理 <p>までの講義の基礎知識の定着を確認する。</p> <p>15 問</p>		

1 時間を 4 5 分で換算

主担当講師の教育活動履歴等

1. 氏名

高橋 秀紀

2. 現在の所属

社会福祉法人 日本原荘
総合ケアサービスセンターかつた

3. 略歴（職歴、講師経験・社会活動等）

3-1. 職歴〔介護・福祉に関する実務経験、教育・研究活動歴等〕

平成3年4月	～平成7年3月	デイサービスセンター日本原荘	介護員
平成7年4月	～平成10年3月	特別養護老人ホーム日本原荘	生活相談員
平成10年4月	～平成13年3月	特別養護老人ホーム第3日本原荘	生活相談員
平成13年4月	～平成15年9月	在宅介護支援センター日本原荘	ソーシャルワーカー
平成15年10月	～平成19年3月	日本原荘居宅介護支援事業所	介護支援専門員
平成19年4月	～平成26年5月	特別養護老人ホーム第3日本原荘	施設長
平成26年6月	～現在	総合ケアサービスセンターかつた	施設長

3-2. 講師経験・社会活動等〔介護・福祉に関する講師活動、調査・研究・評価等の活動〕

兵庫県立大学大学院 経営研究科 介護マネジメントコース修了
修士論文「地域密着型介護老人福祉施設のマネジメントについて」
学位 ヘルスケア・マネジメント修士
取得資格 介護福祉士 社会福祉士 介護支援専門員

講師教育歴

平成22年～26年	津山市職業訓練校	高齢者と家族の理解
平成22年	岡山県介護支援専門員協会	基礎研修講師
平成23年	岡山県地域公益活動推進フォーラム	講師
令和2年7～12月	津山中央看護専門学校	非常勤講師 「社会保障・社会福祉」

4. 著書等

主担当講師の教育活動履歴等

1. 氏名

小泉立志

2. 現在の所属

社会福祉法人鶯園 特別養護老人ホーム千寿荘

岡山県老人福祉施設協議会 会長

公益社団法人全国老人福祉施設協議会 理事

岡山県介護保険関連団体協議会 副会長

3. 略歴（職歴、講師経験・社会活動等）

3-1. 職歴〔介護・福祉に関する実務経験、教育・研究活動歴等〕

昭和57年 4月 社会福祉法人鶯園 勤務（特別養護老人ホーム鶯園 指導員）

平成 4年 6月 社会福祉法人鶯園 特別養護老人ホーム鶯園 次長

8年10月 社会福祉法人鶯園 特別養護老人ホーム千寿荘 荘長 現在に至る

3-2. 講師経験・社会活動等〔介護・福祉に関する講師活動、調査・研究・評価等の活動〕

講師活動：年間12回以上

厚生労働省 社会保障審議会 介護給付費分科会 委員

要介護認定情報・介護レセプト等情報の提供に関する有識者会議 委員

4. 著書等

- ・平成21年9月～平成22年1月 日総研 隔月刊「福祉人材育成」
こうすれば人は集まる！施設のカイゼン3年戦略 3回連載

主担当講師の教育活動履歴等

1. 氏名

仁木 潤

2. 現在の所属

特別養護老人ホーム 高寿園 事務局長

3. 略歴（職歴、講師経験・社会活動等）

3-1. 職歴〔介護・福祉に関する実務経験、教育・研究活動歴等〕

取得資格：社会福祉士

津山市社会福祉協議会 平成3年7月～平成24年3月

特別養護老人ホーム 高寿園 平成24年4月～ 現在

3-2. 講師経験・社会活動等〔介護・福祉に関する講師活動、調査・研究・評価等の活動〕

ノートルダム清心女子大学 人間生活学科 非常勤講師 平成18年9月～平成29年8月

担当科目：社会福祉援助技術

- ・ソーシャル・アドミニストレーション（経営や運営）
- ・スーパーバイザー
- ・面接技法
- ・対人援助技術

キャリア形成訪問指導事業 講師 平成29年～

相談技術研修会ファシリテーター養成研修修了

リーディング・エッジ・マネジメント・セミナー修了

4. 著書等

「阪神大震災と市民ボランティア」に寄稿

1993年

「ノーマライゼーション障害者の福祉」に寄稿

2007年3月号